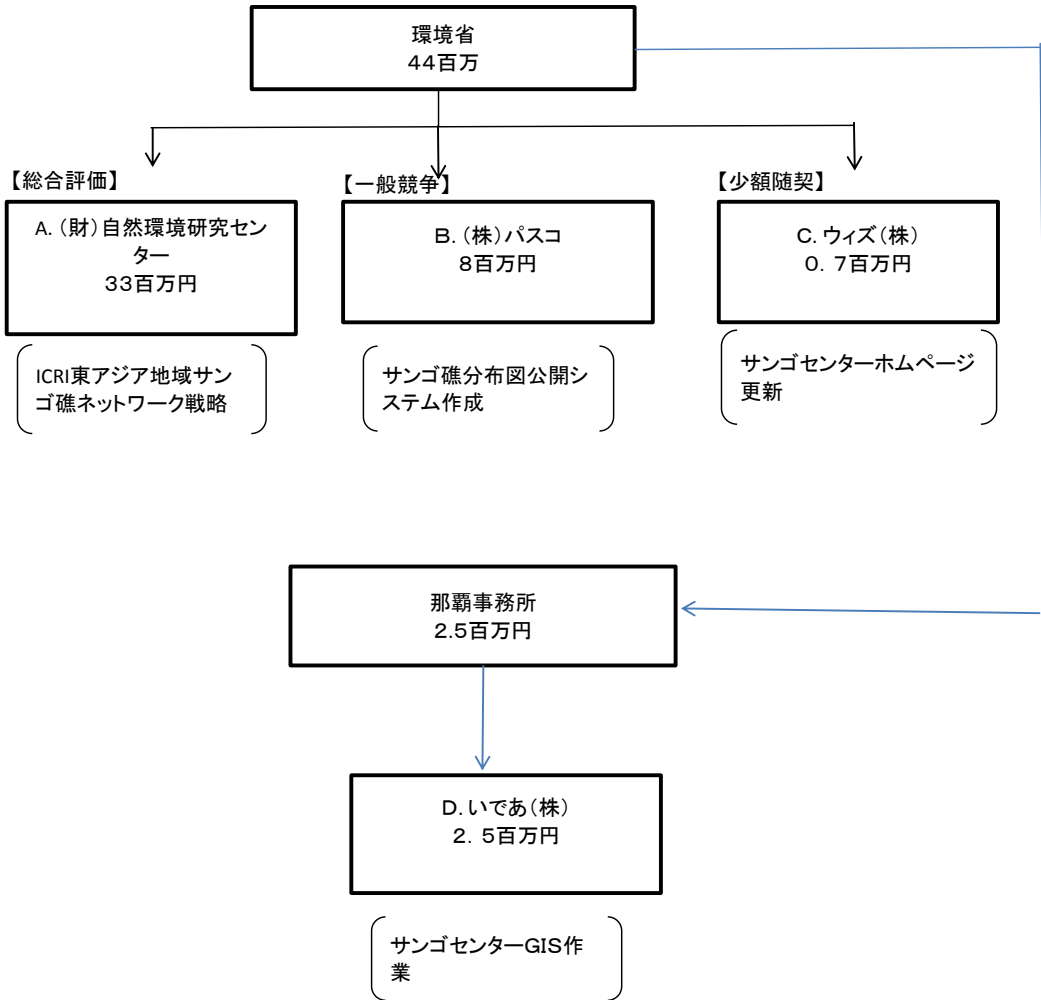


平成23年行政事業レビューシート (環境省)

事業名	アジア太平洋地域生物多様性保全推進費		担当部局庁	自然環境局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	昭和57年度		担当課室	自然環境計画課 野生生物課 国立公園課		課長 塚本瑞天 課長 亀澤玲治 課長 上杉哲郎	
会計区分	一般会計		施策名	5-1 基盤的施策の実施及び国際的取組 5-3 野生生物の保護管理			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	海洋基本計画、21世紀環境立国戦略、生物多様性国家戦略2010			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	アジア太平洋地域において、国際的なサンゴ礁の保全の推進、湿地及びそれを利用する主要な渡り鳥の渡来状況や生息地の状況把握、地域の実情に合った保全管理手法及び普及啓発手法の確立、我が国と他国との間を渡る渡り鳥の保全、生物多様性条約に基づく保護地域作業計画の推進等を図るため、関係する国、機関、地域住民等と協力して事業を実施する。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	①ICRI東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略及び東アジア地域のサンゴ礁モニタリングネットワークの推進のための国際会議の開催を行う。 ②ラムサール条約湿地の保全管理状況をモニタリングするとともに、ラムサール条約第10回締約国会議(平成20年10月開催)において採択された「水田決議」の履行促進のために事例収集等を行う。アジア地域の渡り経路全体の渡り性水鳥の個体数変化を把握するため我が国の湿地におけるガンカモ類のモニタリングを行う。 ③米国、豪州、中国、ロシア、韓国との間で二国間渡り鳥条約・協定等会議を開催するとともに、日口を渡るオオワシ、日米を渡るアホウドリ、日中間を渡るズグロカモメ等の共同事業を行う。 ④アジア各国の保護地域についてデータ収集の基準を整理する。また、その結果を元に保護地域に関する情報を収集・整理することで、各保護地域の管理状況等に関する情報共有を図り、各国の保護地域間での適切なパートナーシップ構築を推進する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 口貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求
		補正予算	0	0	0	0	
		繰越し等	0	0	0	0	
		計	123	269	134	104	70
	執行額	113	196	114			
	執行率(%)	92	73	85			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	①(アジア・オセアニア重要サンゴ礁ネットワーク構築事業)成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(23年度)
	アジア・太平洋地域のサンゴ礁分布図の作成・公開について、作成手法の検討、分布図の作成、公開システムの開発は一律な単位では進捗を表明しない。 また、ICRI東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略の策定・推進戦略の策定作業とその推進については、定量的に評価できない。	成果実績	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	
	②(アジア地域における生物多様性保全推進費)成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)
	ラムサール条約の締約国としての責務を遂行し、国際的に減少している湿地の保全を図る。なお、湿地保全に資する活動の推進はその時々での国内外の状況に応じた適切な対応が求められるため、定量的に評価できるものではない。	成果実績	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	
	③(アジア地域渡り鳥国際共同研究推進費)成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)
	特に二国間における渡り鳥等に関する情報交換、保全活動プログラムの考案、推進等を進め、国境を越えて移動する渡り鳥の保全を図る。なお、相手国との関係等の中で、臨機応変に事業を進める必要があり、定量的に評価できるものではない。	成果実績	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	
	④(アジア保護地域パートナーシップ構築事業)成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(23年度)
	アジアの保護地域のデータ収集の基準の整理、保護地域の管理状況等に関する情報の収集と、アジアでのパートナーシップの構築の推進は定量的に評価できない。	成果実績	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	①(アジア・オセアニア重要サンゴ礁ネットワーク構築事業)活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	サンゴ礁分布図公開システム開発の検討やICRI東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略の策定に向け関係機関との調整、情報収集、検討等を実施するため、定量的な活動指標は示せない。	活動実績(当初見込み)	-	-	-	-	

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	②(アジア地域における生物多様性保全推進費)指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	水田決議国際ワークショップの開催、渡り鳥重要生息地調査、ラムサール条約情報更新、国際湿地保全連合理事会専門派遣等の実施等。 条約締約国等として責務を果たすための能力を質的に高める活動であり、定量的な活動指標は示すことができない。	活動実績 (当初見込み)		-	-	-	-
	③(アジア地域渡り鳥国際共同研究推進費)活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	二国間渡り鳥条約等に基づき行っている活動で、相手国との関係の中で進めているため、定量的な活動指標で示すことができない。	活動実績 (当初見込み)		-	-	-	-
④(アジア保護地域パートナーシップ構築事業)活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	アジアの保護地域でのパートナーシップの構築の推進について一様な単位では活動指標を示せない。	活動実績 (当初見込み)		-	-	-	-
単位当たりコスト	円(/)		算出根拠				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	①アジア・オセアニア重要サンゴ礁ネットワーク構築事業			他国との役割分担及び人件費・現地調査等の見直し等による経費の節減			
	自然環境保全調査費	42	22				
	②(アジア地域における生物多様性保全推進費)						
	自然環境保全調査費	44	37				
	③(アジア地域渡り鳥国際共同研究推進費)						
	自然環境保全調査費	19	11				
④(アジア保護地域パートナーシップ構築事業)活動指標							
自然環境保全調査費	0	0					
計	104	70					
事業所管部局による点検							
算目的状況・予	評価	項目				特記事項	
	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。					
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。					
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。					
	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。					
費目・使途	-	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。					
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。					
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。					
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					
	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。					
活動実績・成果	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。					
	-	活動実績は見込みに見合ったものであるか。					
	-	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。					
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。					
	○	①について、現地調査の代わりに衛星画像を使用することで人件費を削減したとともに、画像データの入手先を厳選し、コストパフォーマンスの高い画像(ALOS)を使用することで効率の良い事業となった。サンゴ研究者への周知を国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)ホームページとReefBaseホームページ上で行っているが、さらに学会誌などで周知をすることにより利用が増えるものと思われる。また、アジア太平洋地域のサンゴ担当の政府職員と研究者を一堂に会して戦略策定を行ったことは、メールベースでは実現できない合意形成のために必要であった。					
点検結果	○	②について、ラムサール条約の管理当局等としての主たる責務として、1.登録湿地のワイズユース、保全推進 2.湿地保全の必要性や保全のあり方に係る普及啓発 3.登録湿地の状況把握が求められている。また、締約国会議で採択された決議等の推進について、決議を踏まえたワークショップの開催等を通じて、関係者と共に推進していく必要があるため、引き続き業務の継続が必要である。なお、業務の実施にあたっては、環境省職員が請負先とともに実施方法等について協議しつつ進めている。今後もラムサール条約等に対応し、推進していくため、必要な調査等を計画的かつ効果的に執行する。					
	○	③について、二国間渡り鳥条約の履行のため、プロトコルに基づき渡り鳥の共同調査を進め、保全に反映させる必要がある。業務実施に当たっては、常に効率等を模索し、保全においても効果的な調査を実施していく。					
	○	④について、アジア各国の保護地域に関するデータ収集の基準を整理するとともに、その結果を元に保護地域の管理状況等に関する情報を収集・整理することで、効率の良い事業となった。今後は、保護地域に関する情報共有を図ること等により、適切なパートナーシップ構築が推進されるものと思われる。					
	○	①について、現地調査の代わりに衛星画像を使用することで人件費を削減したとともに、画像データの入手先を厳選し、コストパフォーマンスの高い画像(ALOS)を使用することで効率の良い事業となった。サンゴ研究者への周知を国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)ホームページとReefBaseホームページ上で行っているが、さらに学会誌などで周知をすることにより利用が増えるものと思われる。また、アジア太平洋地域のサンゴ担当の政府職員と研究者を一堂に会して戦略策定を行ったことは、メールベースでは実現できない合意形成のために必要であった。					
予算監視・効率化チームの所見							
一部改善	他国との役割分担を見直し、我が国の関与を真に必要な部分へ重点化すべき。						
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)							
縮減	他国との役割分担及び人件費・現地調査等の見直し等により経費を節減し概算要求額を減額。						
補記(過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)							

○平成22年度アジア・オセアニア重要サンゴ礁ネットワーク構築事業



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A. (財)自然環境研究センター					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費		12			
旅費	議長招聘旅費、職員旅費、ICRI東アジア地域ワークショップ参加者招聘旅費等	9			
印刷製本費	業務報告書、GCRMN東アジア地域現況報告等	4			
賃借料	第6回ICRI東アジア地域ワークショップ、CBD COP-10サイドイベント等	1			
謝金	会議記録作成等、共同議長謝金	1			
その他	一般管理費、消費税等	6			
計		33	計		0
B.(株)パスコ					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	サンゴ礁分布図公開システム作成	8			
計		8	計		0
D. いであ(株)					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	サンゴセンターGIS作業	2.5			
計		2.5	計		0
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)自然環境研究センター	ICRI東アジア地域サンゴ礁ネットワーク戦略	33	1	88

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)パスコ	サンゴ礁分布図公開システム作成	8	2	56

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	ウィズ(株)	サンゴセンターホームページ更新	0.7	少額随意契約	-

D.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	いであ(株)	サンゴセンターGIS作業	2.5	1	99

○平成22年度アジア地域における生物多様性保全推進費

環境省
45百万円

一般事務費
2百万円

アジア地域におけるラムサール条約湿地の保全と賢明な利用や渡り鳥保護を進めるため、ラムサール条約のワズユースの推進やアジア地域の新規登録支援等を実施するとともに、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップの国内外における実施を支援

【総合評価、一般競争入札、少額随意契約】

A.
NPO法人 日本国際湿地保全連合
NPO法人 バードライフ・アジア等 (11件)
39.5百万円

水田決議国際ワークショップの開催、シギ・チドリ類追跡調査、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ事業推進 等

地方環境事務所
2百万円
(3件)

生物多様性センター
1百万円

【随意契約】

E. (株)数理計画
1百万

国内のガンカモ類の生息状況調査

那覇自然環境事務所

九州地方環境事務所

東北地方環境事務所

【随意契約】

B. アンパルの自然を守る会
0.5百万円

ラムサール条約湿地「名蔵アンパル」におけるラムサール条約情報票更新に係る調査等

【随意契約】

C. 新和技術コンサルタント(株)
1百万

ラムサール条約湿地「蘭牟田池」におけるラムサール条約情報票更新に係る調査等

【随意契約】

D. 特定非営利活動法人
ぬまっこくらぶ
0.5百万

ラムサール条約湿地「蕪栗沼・周辺水田」におけるラムサール条約情報票更新に係る調査等

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごと
 に最大の金額が支出され
 ている者について記載す
 る。使途と費目の双方で
 実情が分かるように記
 載)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	東アジア・オーストラリア地域フ ライウェイ・パートナーシップの推進	15			
計		15	計		
B.					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計			計		0
C.					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計			計		0
D.					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計			計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	NPO法人 バードライフ・アジア	東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップの推進	15	1	89
2	NPO法人 バードライフ・アジア	二国間渡り鳥等会議等の開催	7	1	97
3	NPO法人 バードライフ・アジア	東南アジアにおける湿地管理の促進	6	1	91
4	NPO法人 日本国際湿地保全連合	水田決議国際ワークショップの開催	4	2	67
5	(財)山階鳥類研究所	シギ・チドリ類の渡り経路の調査等	3	1	67
6	㈱Jリポート	第2回水田決議国際ワークショップの開催	2	2	67
7	㈱オー・エム・シー	ラムサール条約40周年記念事業開催	1	9	47
8	㈱ティー・エー・シー	ラムサール条約湿地DVD作成	1	少額随意契約	-
9	NPO法人 日本国際湿地保全連合	第1回国際湿地保全連合理事会専門家派遣	1	少額随意契約	-
10	NPO法人 日本国際湿地保全連合	第2回国際湿地保全連合理事会専門家派遣	0.5	少額随意契約	-

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	アンパルの自然を守る会	ラムサール条約湿地「名蔵アンパル」におけるラムサール条約情報票更新に係る調査等	0.5	少額随意契約	-

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	新和技術コンサルタント(株)	ラムサール条約湿地「蘭牟田池」におけるラムサール条約情報票更新に係る調査等	1	少額随意契約	-

D.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	特定非営利活動法人ぬまっくらぶ	ラムサール条約湿地「蕪栗沼・周辺水田」におけるラムサール条約情報票更新に係る調査等	0.5	少額随意契約	-

E.

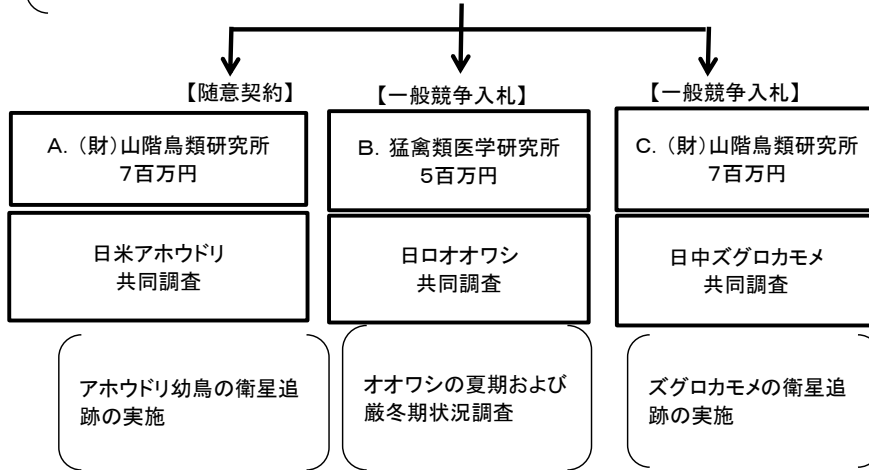
	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	㈱数理計画	国内のガンカモ類の生息状況調査	1	少額随意契約	-

○平成22年度アジア地域渡り鳥等国際共同研究推進費

環境省
19百万円

執行管理

二国間渡り鳥条約等に基づく会議結果や相手国との意見交換に基づき日米共同によるアホウドリ幼鳥の追跡調査、日ロ共同によるオオワシの夏季および厳冬期の状況等調査、日中共同によるズグロカモメの衛星追跡調査等を企画した。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。使
 途と費目の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.(財)山階鳥類研究所			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	日米アホウドリ共同調査	7			
計		7	計		0
B. 猛禽類医学研究所			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	日ロオオワシ共同調査	5			
計		5	計		0
C.(財)山階鳥類研究所			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	日中ズグロカモメ共同調査	7			
計		7	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)山階鳥類研究所	アホウドリ幼鳥の衛星追跡の実施	7	随意契約	-

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	猛禽類医学研究所	オオワシの夏期および越冬期状況調査	5	1	95

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)山階鳥類研究所	ズグロカモメの衛星追跡の実施	7	1	91

平成22年度アジア保護地域パートナーシップ構築事業

環境省
6百万円

ポスト2010年目標の実現に向け、まずは文化的・自然的条件で共通するところの多いアジア各国の保護地域について、現状の知見等のとりまとめを目的とした、PoWPA実施強化のための調査を実施するもの。



A. (財)自然環境研究センター
5.5百万円

B. (株)サイリック
0.9百万円

ポスト2010年目標の実現に向け、まずは文化的・自然的条件で共通するところの多いアジア各国の保護地域について、現状の知見等のとりまとめを目的とした、PoWPA実施強化のための調査を、文献調査、専門家へのヒアリング調査、現地調査等により実施した。

アジア保護地域パートナーシップ構築事業を行うにあたり、自然公園法等の英文を資料の一部として使用するため、翻訳を行った。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の金
 額が支出されて
 いる者について
 記載する。使途
 と費目の双方で
 実情が分かる
 ように記載)

費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	アジア保護地域パートナーシップ 構築事業	5.5			
計		6	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)自然環境研究センター	アジア保護地域パートナーシップ構築事業費	5.5	1	61.9

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)サイリック	アジア保護地域パートナーシップ構築事業費に係る資料作成業務	0.9	少額随意契約	—